

劇場で、生きる。

座・高円寺 劇場創造アカデミー

Za-Koenji Public Theatre / Creative Theatre Academy

2021年度4月開講

演技コース・舞台演出コース・劇場環境コース（全日制／2年制）

講義のみコース（1年制）

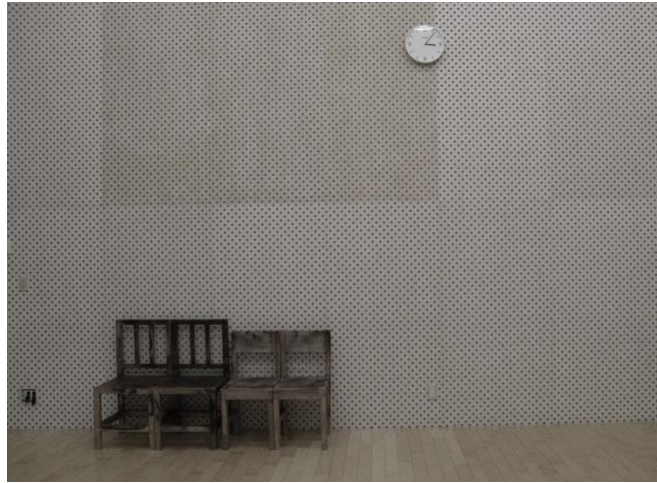
2021年度生募集版

2020年10月9日発行

主 催 … NPO法人劇場創造ネットワーク／座・高円寺
提 携 … 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 東京学芸大学教育学部
協 力 … 一般社団法人日本劇作家協会 公益社団法人日本照明家協会
公益社団法人日本舞台音響家協会 いわき芸術文化交流館アリオス
まつもと市民芸術館 伊丹市立演劇ホール(アイホール) 北九州芸術劇場

杉並区 地域の文化芸術拠点形成事業
文化庁 文化芸術創造拠点形成事業





CONTENTS

- 2 ようこそ劇場創造アカデミーへ
- 3 ～カリキュラム・ディレクターからごあいさつ～
- 4 コースの紹介
演技コース／舞台演出コース／劇場環境コース
講義のみコース
- 5 カリキュラムについて
1年目・基礎課程 2年目・専門課程
- 6 カリキュラム 1年目
- 9 授業以外の活動
- 10 カリキュラム 2年目
- 12 講師一覧
- 14 修了上演
- 16 修了後について
- 17 修了生からのメッセージ
- 18 募集要項



劇場で、生きる。

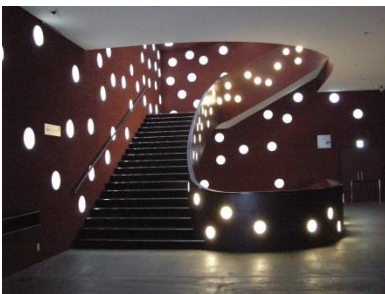
劇場の活動に毎日ふれながら、
演劇について、
劇場について、
総合的に学ぶ。



「劇場創造アカデミー」は、2009年に東京・杉並区の公立劇場、座・高円寺が開設した本格的な「劇場人」の育成を目的とする2年制の演劇学校です。毎日劇場に通いながら、演劇について「知り、考え、実践する」新しいカタチのカリキュラムを実施しています。

総合的なカリキュラム

俳優志望でもスタッフワークを学ぶ。演出や制作志望でも演技をする。一表現者として、考えをカタチにする企画力と説得力を持つ。第一線で活躍する講師陣のもと、総合芸術である演劇の多様な知識とその職能に触れることで、実際の現場で求められる素地力を養います。



劇場ならではの実践的機會

1年次から授業の成果発表を公開で行います。また、高円寺の町の人々と連携して開催される事業の運営に触れる機会がたくさんあり、その都度、運営や技術など、劇場スタッフから直接的な指導を受けることができます。また、座・高円寺で上演される幅広いタイプの舞台芸術をご観劇いただけます。2年間で積み上げた研修の集大成として、座・高円寺1で修了上演を行ないます。

修了後のバックアップ

修了生には、座・高円寺の舞台への出演の機会、各地の劇場への就業の促進、劇団やプロダクションへの紹介をしています。また劇団やユニット結成へのアドバイスなどもふくめ、座・高円寺ならではのネットワークのもと、単年度にとどまらない長期的なバックアップ体制を行います。



劇場創造アカデミー カリキュラム・ディレクターからごあいさつ

佐藤信 さとう・まこと 座・高円寺芸術監督

劇作家、演出家

1970年に「黒色テント68/71（現、劇団黒テント）」の結成に加わり、作・演出として、全国120都市におよぶテント劇場による移動公演を行う。「座・高円寺」芸術監督。個人劇団「鴉座」主宰。

劇場という場所で生きたいと思っているあなたへ

座・高円寺の劇場創造アカデミーは、あなたのためにひらかれた「出会いの場所」です。あなたと同じように将来の劇場の担い手（演者、作家、演出家、スタッフ、制作者）を夢見ている仲間たちとの出会い、現にいま、劇場という場所で生き、活動している先人たちとの出会い、劇場や演劇にかかわるさまざまな知識や方法、技術との出会い、そしてなによりも劇場という場所そのものとの出会いです。

知っていますか。この国で劇場や演劇を学ぶための体系的な教科書は一冊もありません。劇場へ向かっての第一歩を踏み出そうと考えているあなたは、自分の目でよく見て、考え、選ぶ必要があります。

古着屋とライブハウスの町高円寺で、劇場創造アカデミーは、あなたに選ばれるのを待っています。

生田萬 いくた・よろず

劇作家、演出家

1981年に「ブリキの自発団」を結成。「小劇場ブーム」の中心劇団のひとつとして高い評価を得、銀粉蝶、片桐はいりなどを輩出する。代表作に『夜の子供』など。TBS「世界遺産」構成作家、キラリ☆ふじみ芸術監督などを歴任。

演劇を志すみなさん！少し前まで演劇は、劇団に入るか自分で劇団をつくってやるものでした。しかし、いまでは劇団ではなく、ユニットや劇場の企画する公演を中心に演劇シーンは動いています。なかでも注目すべきは、公共劇場の果たす役割が増したこと。

そんな時代を先取りし、かつて劇団が担った俳優や演出家の育成とともに、公共劇場の活動を肌で知り、「劇場をつくる」という視点から演劇を発想できる「劇場人」を世に送るのが、このアカデミーのミッションです。

来たれ、高円寺へ！

木野花 きの・はな

俳優、演出家

1974年に女性だけの劇団「青い鳥」を結成。80年代の小劇場ブームの旗手的な存在となる。同劇団を退団後は、女優・演出家として活躍する一方、若手俳優の育成にも力を注いでいる。

演劇を目指す理由は人それぞれで、演劇の基礎というのもさまざまで、自己流でも素人でも、運が良ければ舞台上に立てる。何でも有りのこの世界で、敢えて基本を体系化し、二年間みっちり鍛えたい人にお薦めします。

創造アカデミーのカリキュラムは、充実していると同時に過酷です。演劇は続けてゆくものではなく、続いてしまうもの。自分が手放せないものと出会ったかどうかは、過酷な状況の中でこそ実感できるはず。その手応えはまず、カリキュラムの中に書かれています。



Photo=宮内勝



Photo=宮内勝



コースの紹介



演技コース

**俳優・パフォーマー・ワーク
ショップリーダーとしてのちから
を培う**

俳優、ワークショップリーダーの志望者を対象としたコースです。他のコースの受講生と共に様々な視点から演技の基礎を学びます。2年目にはより実践的なカリキュラムを受講することで、演技者・表現者として自らが考え行動できる、自立した俳優・パフォーマーとしての能力を身につけます。

修了後は…

芸能事務所やカンパニーに所属し俳優として活動するほか、ワークショップファシリテーターとして活動するなど、演劇の包括的な活動を見据えた展開が望めます。

講義のみコース

1年目カリキュラムの講義のみを受講

講義は基本的に毎週月・火・水の午前中に行なわれ、仕事や他の活動を行いながら受講することも可能です。講義では古典芸能から最先端の舞台芸術作品まで、演劇や劇場について幅広い知識や視点を得ることができます。演技には参加できませんが、他コースの受講生とともに演習を行う講義がある他、座・高円寺で行われる公演の観劇機会や、アカデミー生に向けた情報は、他コースと同じように受け取ることができます。



舞台演出コース

**演出・ドラマトウルク・舞台美術
術・劇場技術について学ぶ**

演出、ドラマトウルク、舞台美術、劇場技術スタッフの志望者を対象としたコース。演技について学ぶとともに、さまざまな作品や演出方法、稽古場のクリエイションについて学びます。2年目には、自分の演出プランや考えを他者に伝える能力を、実習をとおして養うとともに、演技コースの演習に演出部として参加することで、ものづくりを支えるスタッフワークを実践することができます。

修了後は…

演出家・劇作家として劇団やユニットを立ち上げるほか、演出助手、舞台監督助手、美術・音響・照明スタッフなど、公演の演出部として、幅広い活動が展開できます。



劇場環境コース

**制作・劇場運営・地域社会と舞台
芸術の相互活性化について学ぶ**

制作・劇場運営、地域活動の志望者を対象としたコース。公共劇場における、劇場制作や運営、地域と劇場の関係性について学びます。2年目には、演技コースの演習にスタッフとして実践的に関わるほか、他劇場へのフィールドワークや、社会と演劇の接点、コミュニティデザイン、日本における舞台芸術の意義について考えます。

修了後は…

公共劇場や民間のホール運営団体での活躍や、作品を企画・プロデュースしたり、演劇・舞台芸術を社会にアウトリーチ活動に従事することができます。

受講生特典

■座・高円寺の主催と提携公演の、舞台稽古または本公演（年間20 作品程度）を無料で観劇することができます。
※レポート提出あり

■日本劇作家協会が主催する「戯曲セミナー」（年30 回程度）に、聴講生として参加することができます。

※アカデミー1年目対象、人数限定、添削授業への参加は不可

※事情により開講できない場合はご了承ください。

カリキュラム

カリキュラム 1年目

基礎課程

コースに関わらず、研修生全員が同一のカリキュラムを受講します。演劇や劇場に対する基本的な考え方を身につけ、俳優とスタッフが互いの役割を理解し合うことが目的です。

実技では、台本の読み方、セリフの覚え方、役へのアプローチ方法をはじめ、狂言や合気道など伝統的な身体技法、ダンスや即興演技など台詞に頼らない表現方法まで、様々な演技手法を実習します。また、スタッフワークとして、舞台における照明・音響の役割、プランの基礎を実例で学びます。

講義では、国内外の最先端の舞台作品から伝統演劇の代表作まで幅広く舞台のポイントを学ぶ一方、劇言語の特性や現代性、映像・舞台美術と空間の関係性など、作り手の視点から舞台を創造的に読み解きます。また、劇場の社会的な役割をまちづくりやメセナとの関係を通じて考察します。

一年の締め括りには、研修生自身の企画により成果発表会を行います。

カリキュラム 2年目

専門課程

演技・舞台演出・劇場環境のコースごとに、ゼミ形式の授業を行ないます。一年目の研修を基礎に、それぞれの分野で実践的に活動していくための知識と技術を学ぶことが目的です。カリキュラムは、ゼミ、必修、選択の3つに分かれています。

ゼミでは、演技・演出・制作の各現場における具体的な作業の指導とともに、各々の作業の前提となる考え方が身につくような授業を行います。

劇場活動に対する理解を深めるため、必修科目として劇場研修を行う他、劇場人として活動してゆく為に必要なプレゼンテーションを学びます。

また、選択科目として、小規模のスタジオ・パフォーマンスを行う「演技演習」や「身体表現演習」、ワークショップを企画・提案・実行する「演劇教育演習」、他地域劇場へのフィールドワークから社会デザインを学ぶ「劇場環境論実践」などがあります。

二年目の締め括りには、座・高円寺1で修了上演を行います。

	●前期4月～7月	●中期9月～12月	●後期1月～3月	
1年目	共通カリキュラム 開講式・ガイダンス 講義 パフォーマンス概論 伝統演劇論 劇場概論 舞台美術基礎 実技 狂言・合気道 演技基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 身体表現基礎Ⅰ・Ⅱ 発声基礎Ⅰ・Ⅱ ワークショップ・ファシリテーション [実習] ひっくり大道芸 みんなのリトル高円寺	夏期休講 講義 映像メディアワークショップ テキスト読解 セノグラフィ論 演劇概論 実技 狂言・合気道 演技基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 身体表現基礎Ⅰ・Ⅱ 発声基礎Ⅰ・Ⅱ	冬期休講 講義 ドラマトゥルク論 劇場環境論 実技 劇場技術論基礎Ⅰ [照明] 劇場技術論基礎Ⅱ [音響] 発声基礎Ⅱ 能	春期休講 成果発表
	コースに合わせたゼミ形式 ゼミ 演技ゼミ／舞台演出ゼミ／劇場環ゼミ 悲恋 演劇教育 劇場環境実践論 企画プレゼンテーション 劇場研修A・B 選択 発声・歌唱Ⅰ・Ⅱ 身体表現演習Ⅰ テキスト研究 合気道 [実習] ひっくり大道芸 みんなのリトル高円寺	ゼミ 演技ゼミ／舞台演出ゼミ／劇場環ゼミ 悲恋 演劇教育 劇場環境実践論 企画プレゼンテーション 劇場研修A・B 選択 発声・歌唱Ⅰ・Ⅱ 身体表現演習Ⅱ 合気道	修了上演稽古	修了式

※授業科目および授業日程は年度によって変更になる場合があります。

アカデミー生は通常のカリキュラムの他にも、1年を通して劇場の様々な事業に、研修、または任意のボランティアスタッフとして参加できます。こうした実践の場を経験することで、単なる演劇鑑賞の場ではない劇場の総体的な在り方や、街と劇場との関係について考え、築いていく、劇場創造アカデミー独自の視点を養います。

【実技】

演技基礎Ⅰ

俳優の演技の基本を、テキスト（他者の言葉）を第三者（観客）に伝えることと捉え、そのための方法論、基礎技術の習得を目的とした演習です。

担当講師：佐藤信（劇作家、演出家）



演技基礎Ⅱ

テキストの読み方、セリフを覚えることから「役」を生きることへのアプローチ法を体験しつつ、セリフの呪縛から「からだ」が解放される至福の瞬間を発見することが目標です。

担当講師：生田萬（劇作家、演出家）



演技基礎Ⅲ

テキストを選び、一本の芝居あるいはいくつかのシーンを立ち上げ、最終日には上演スタイルでの発表を目指します。小空間で観客の視線にさらされる体験を通して、見せ物としての俳優の身体を獲得する。

担当講師：西沢栄治（演出家）



演技演習<基礎>

脚本の読み方、役へのアプローチ、台詞と即興する身体の解放と集中から舞台稽古まで、実践的なレッスンを目ざします。

担当講師：木野花（俳優・演出家）



発声基礎Ⅰ

「腹式呼吸による発声」「歌を楽しんで歌う」「自分で歌を作る」「身体を動かしながら声を出す」ということを軸に、ワークショップ形式で行います。

担当講師：伊藤和美（ヴォイストレーナー）



発声基礎Ⅱ

基本的な考え方を変え、自分で自分の声や呼吸の状態を把握できるようになること＝トラブルの事前回避・役作りへの反映が出来ることを目的とします。

担当講師：新田恵（ヴォイストレーナー）



ワークショップ・ファシリテーション

演劇ワークショップのファシリテーション（進行）について、理論、実際の両面から学びます。インプロの創始者の一人、キース・ジョンストンの方法論を、さまざまなゲームやアクティビティーを通して学んでいきます。

担当講師：高尾隆（東京学芸大学准教授）



応用演劇

人々と演劇の関係を拡張し、演劇のもう一つの可能性を探求する領域とも言える応用演劇について、ここではその広がりを知り、特に代表的な思想であり方法論である「被抑圧者の演劇」について、一部実技を伴う形で考察します。

担当講師：花崎攝（シアター・プラクティショナー）



身体表現基礎Ⅰ

ヨガ、ピラテスを取り込んだストレッチなどの動きを通して筋肉、関節などの自覚を高めていきます。また、自然運動を主にした運動を通して、自身の身体性を自覚し、身体を調整する能力、制御する能力、そして空間知覚能力などを高めます。

担当講師：竹屋啓子（ダンサー、振付家、ダンス01主宰）



身体表現基礎Ⅱ

台詞に頼らない身体表現を探します。自分から発せられるものと自分の感覚との誤差、また、自分のイメージする動きを再現出来る身体、止まれる身体。それら自由な身体を、探ってゆきます。台詞に頼らない身体表現を探します。

担当講師：小野寺修二（演出家、振付家、カンパニーデラシネラ主宰）



狂言

「立つ」「座る」「扇を開く、閉じる」「足の運び」などの狂言の基本的な所作を、初歩的な小舞や短い狂言の稽古を通じて身につけ、能舞台の成り立ち、舞台上での身体の在り方を学びます。

担当講師：山本東次郎（狂言師）



能

能において身体はどのように使われるのでしょうか。身体の中の、左と右、前と後ろ、上と下、内と外、骨と肉、面(めん)と面(つら)など、対の要素が、それぞれにブレーキとアクセルを同時に踏み込んで、舞台の星間物質となり、波動が送られ、男と女、神と鬼、彼岸と此岸などに、また対します。

担当講師：清水寛二（能役者）



身体運動基礎／合気道

仕手（技を掛ける）と受け（技を受ける）を通して基本動作を稽古します。円滑な身体運動能力とともに、心が肉体を支配するということが、自己を律すること、相手に向き合う精神を学びます。

担当講師：清水健太（天道流合気道天道館道場長）



劇場技術論基礎Ⅰ〔照明〕

照明に関する基礎的な知識はもちろんのこと「光」についての基本的な知識を学びます。劇場構造における照明システム、照明デザインなどを、実際の機材を使った実演と、具体的な事例を交えながらの講義で紹介、分析してゆきます。

担当講師：服部 基（照明家、LDC-J会員）
齋藤茂男（照明家、LDC-J会員）



劇場技術論基礎Ⅱ〔音響〕

音と聴覚の関係や、音の特性や効果についての知識を学びます。具体的な資料や、実際に音を聞いたり、音を出したりすることで、表現と技術の両面から舞台音響を考察します。同時性・空間性・実演性などの舞台音響の特質を考えることも講義の目的となります。

担当講師：藤田赤目（舞台音響）

渡邊邦男（舞台音響家、日本舞台音響家協会理事長）



【講義】

パフォーマンス概論

現代演劇、ダンスなど、パフォーマンス的な芸術活動についての概要を学びます。古代ギリシアのトラゲディア・コメディアから現代演劇までの、さまざまな演劇の実態について、現代演劇の具体的な事例を紹介しつつ分析・解析してゆきます。

担当講師：鴻英良（演劇批評家）
内野儀（演劇批評家、学習院女子大学教授）
佐々木敦（批評家、HEADZ主宰、ゲンロン批評再生塾主任講師）



写真は、公開講座「パフォーマンス概論・鼎談」より

伝統演劇論

前代の文化を根絶やしにしない。そこにこそ日本人と日本人の美意識がある。日本と日本人が守り、育ててきた伝統芸能の「歌舞伎」を中心に、日本人にとって「伝統芸能」とは何か？そして何をもたらしてきたのか？といったことを考えます。

担当講師：織田紘二（日本芸術文化振興会（国立劇場）顧問）

劇場概論

1980年代後半から全国各地に数多く建設された、劇場・ホールの現状を、具体的な事例を見ながら、その変化や特徴、設置目的や施設の構成、機能などを学んでいきます。

担当講師：伊東正示（劇場コンサルタント、建築家）
坂口大洋（仙台高等専門学校建築デザイン学科教授）



テキスト読解

いくつかの戯曲作品の断片を読み、その面白さ、戯曲の可能性について考えます。写真や映像作品などの課題をきっかけにして、モノログや会話のせりふを創作し、受講生で読み合わせをし、合評します。

担当講師：松田正隆（劇作家、演出家）
多田淳之介（演出家、東京テスロック主宰）



映像メディアワークショップ

舞台芸術と映像、デジタルテクノロジーを組み合わせることで、どのような演出効果を生み出すのかを、作品の事例を映像で見ながら、映像やテクノロジーを使う演出意図を探ります。メディアとは何か？テクノロジーとは何か？を考えることを通じ、作家性、作品の強度といった普遍的なテーマを追求します。

担当講師：飯名尚人（映像作家、Dance and Media Japan主宰）



セノグラフィ論

セノグラフィ（劇場や舞台の空間構造は、作品の意味に影響することを鑑み、舞台空間を考察すること）を学びます。主にヨーロッパの現代演劇、ダンス、サーカス、大道芸を例にとって、演出とセノグラフィの関係、劇空間が持つ重層的な意味を探ってゆきます。

担当講師：藤井慎太郎（早稲田大学文学学術院教授）

演劇概論

この「演劇概論」では、基本的に日本の演劇に圧倒的に足りないと思われる、歴史と理論の二つに主眼をおいて行います。ただし、いわゆる事実としての歴史を教科書のように学ぶことは一切しません。その歴史という言説がなぜ、いかに立ち上がっていったのかを、実践へと介入するための理論を構築するために行います。そのために様々なテーマを元に歴史を読み込んでいくこと（たとえば、アジア、革命、アヴァンギャルド、実験、民衆、在日、LGBTなどなど）を予定しています。

担当講師：高橋宏幸（演劇批評家、桐朋学園芸術短期大学常勤講師）



舞台美術基礎

舞台美術はどの様に創作されているのか。二名の美術家による現場での話と、テキストから、舞台美術に必要な情報を読み解き、舞台美術を創作します。

担当講師：大島広子（舞台美術家）

堀尾幸男（舞台美術家）



劇場環境論

劇場運営・経営に欠かすことのできない環境としての「公共性」を意識することをめざします。ゲストスピーカーによる具体的な現場実践事例の紹介、受講者との質疑等を通じて「知の再編集」を試みてゆきます。

担当講師：中村陽一（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授）



ドラマトウルク論

演出家のパートナーとして、作品作りの根幹を支えるもうひとつの存在であるドラマトウルクという存在を知り、創造の現場で求められる多種多様な働きの具体的な事例を紹介し、また、模擬的な作品の分析を行います。

担当講師：長島確（東京藝術大学招聘教授、F/Tディレクター）



授業以外の活動

カリキュラムの他に劇場研修として、春の「高円寺びっくり大道芸」、「みんなのリトル高円寺」や、こどものためのプログラム「みんなの作業場」（ワークショップ）、「絵本のカフェ」（絵本の読み聞かせ）、「座の市」（劇場主催のフードマーケット）などがあります。



↑ 地下3階 けいこ場前ラウンジ



↑ みんなの作業場



↑ みんなのリトル高円寺



↑ 高円寺びっくり大道芸



↑ 11月/すぎなみフェスタ



↑ 12月/納会

それぞれが目指している分野について、劇場施設を生かした、より具体的な専門性のある内容の実技、演習を各自が選択してスキルを深めます。

【ゼミ】

演技ゼミ

場面を構想し、実際に演じてみます。共同で作業することで一人では気付かなかった発想ややり方に触れ、技術を高、自身と、他者の演技に自覚的になる。

担当講師：松本修（演出家、俳優）



舞台演出ゼミ

舞台表現における「演出」の意味を、舞台芸術の再定義という観点からとらえ直すとともに、演出における実際的な作業工程を知り、体験する演習です。

担当講師：佐藤信（劇作家、演出家）

劇場環境ゼミ

前期は非営利組織のマネジメントに関する文献講読を軸に、発表とディスカッションを行うとともに、劇場法など劇場環境をめぐるトピックについて討議し、提言をまとめます。中期は、座・高円寺の事業を手がかりに、劇場運営や公演企画について実務に沿って公共劇場の在り方について学び、修了上演の制作準備に取り組みます。

担当講師：高宮知数（マーケティング・プロデューサー）

石井恵（座・高円寺 企画・制作チーフ）

森直子（座・高円寺 企画・広報）

【必修】

演技演習

演技演習<基礎>に引き続き、受講生が選んだ脚本・キャスティングを元に、試演会という形で観客の前で演じる事を最終目標とします。脚本の読み方、役へのアプローチ、台詞と即興する身体の解放と集中から舞台稽古まで、実践的なレッスンを目ざします。また、この授業では舞台演出コースと劇場環境コースのメンバーが演出部として参加します。スタッフワーク（場の進行の管理、台本作成、音響の簡易プランづくり、明かりづくり、オペレーションなど）の具体的な作業プロセスに立ち会いつつ、より具体的な作品作りの現場を学びます。



演技・舞台演出合同ゼミ

演出プランの策定作業からキャスティングを経て稽古開始、そして、発表まで、作品づくりのすべてに全員がかかわる。演出家と俳優の共同作業のあり方について実践的に検討する。

担当講師：生田萬（劇作家、演出家）



【必修】

企画プレゼンテーション・ディスカッション

公共劇場を軸に演劇活動を展開する上で、地域社会、行政、企業といった考え方の異なる人や組織との共同作業は必要不可欠なものとなります。共同作業を行うにあたって前提となる基本的な技能などを習得することを目的に、スピーチ、批判的思考、ディスカッション、リサーチなどを学び、最終的には企画のプレゼンテーションを行います。

担当講師：高尾隆（東京学芸大学准教授）

高宮知数（マーケティング・プロデューサー）



劇場研修A〔運営系〕

劇場活動への理解度を深めるとともに、劇場人としての適性を見極めるための研修。制作や広報といった企画・運營業務の補助や、劇場で行われる主催事業・関連事業について発生する作業を経験することで、劇場の全体的な在り方を学びます。

劇場研修B〔技術系〕

技術スタッフの日常的な動きに同伴しながら、機構・照明・音響の業務補助として適宜携わります。主催・提携公演時における道具類の搬出入、照明・音響の吊り込みなど仕込み・ばらし作業の立会い、貸館公演への対応、備品や機材の整理・点検などの管理業務を学びます。

【選択】

身体表現演習Ⅰ

1年次に引き続き、自分のイメージする動きを再現出来る身体、止まれる身体、自由な身体を、探ってゆきます。台詞に頼らない身体の表現を探しながら、授業の最後にスタジオパフォーマンスを行います。

担当講師：小野寺修二（演出家、振付家、カンパニーテラシネラ主宰）



身体表現演習Ⅱ

1年次に引き続き、ヨガ、ピラテスを取り込んだストレッチなどの動きを通して、呼吸や筋肉、関節のはたらきを学び、ケガの少ない持続力のある身体づくりを行います。また、各自が選んだ詩の言葉をモチーフに、ソロ、ペアで作品づくりに取り組みます。

担当講師：竹屋啓子（ダンサー、振付家、ダンス01主宰）

発声・歌唱Ⅰ

発声の基礎を培った1年次に引き続き、2年次はミュージカルの楽曲の歌唱に取り組みます。俳優として歌うことにポイントを置き、聴かせることよりも伝えることを、言葉にいかん表現を与えられるかを目標としたプログラムを行います。ソロ、デュエットなどに分かれパート練習を反復し、最終的には小作品の発表を行います。

担当講師：伊藤和美（ヴォイストレーナー）



発声・歌唱Ⅱ

1年次に学んだテクニックを復習し、より良い状態の自分の身体と声を構築します。また、ヴォイストレーニングのテクニックをセリフや楽曲に応用する方法を実践してみます。

担当講師：新田恵（ヴォイストレーナー）

身体運動基礎／合気道

1年次に引き続き、天道流合気道の稽古を継続していきます。技・受け身すべての面で、前年に習得したものをベースとして鍛錬・向上していきます。

担当講師：清水健太（天道流合気道天道館道場長）



演劇教育演習

1年次の「ワークショップ・ファシリテーション」に引き続き、ウォームアップやアイスブレイクのための簡単なゲームをファシリテートすることを学びつつ、演劇ワークショップに関する文献講読、劇場や地域、学校などでのフィールドワークや実習を行います。

担当講師：高尾隆（東京学芸大学准教授）

テキスト研究

ドラマトゥルクの視点から、現代演劇におけるテキスト（戯曲／台本）の役割について考えます。具体的なテキストをもとに、企画・コンセプトの立案から、リサーチ、テキストレジ、配役、美術プランに至るまで、演技とテキストの関係に焦点を当てながら検証し、作品の可能性を探求します。

担当講師：長島確（東京藝術大学講師、ドラマトゥルク）



劇場環境実践論

今後の公共劇場の運営を考える際に欠かすことのできない“公共性”という概念に焦点を当てた授業を展開します。公共性が展開する場となる“公共圏”の新たな担い手として現代社会に登場した社会的諸組織（NPO/NGO、ボランティアな市民組織など）に着目し、それらを含み込んだ地域社会のなかで、劇場という場が持つ意味と可能性、課題を考察します。

担当講師：中村陽一（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授）



[フィールドワーク]

社会デザインの視点から劇場運営や表現活動を考える授業「劇場環境実践論」（講師・中村陽一）の一環として、夏休み中（7月から8月）に2泊3日で地方の公共施設の見学をしています。2019年度は、京都市にて各劇場を訪問見学してきました。



講師一覧

【実技】

■演技基礎／舞台演出ゼミ

佐藤信（さとう・まこと）劇作家、演出家

1970年に「黒色テント68/71（現、劇団黒テント）」の結成に加わり、作・演出として、全国120都市におよぶテント劇場による移動公演を行う。「座・高円寺」芸術監督。個人劇団「陽座」主宰。

■演技基礎／演技・舞台演出合同ゼミ

生田萬（いくた・よろず）劇作家、演出家

1981年に「ブリキの自発団」を結成。「小劇場ブーム」の中心劇団のひとつとして高い評価を得、銀粉蝶、片桐はいりなどを輩出する。代表作に『夜の子供』など。TBS「世界遺産」構成作家、キラリ☆ふじみ芸術監督などを歴任。

■演技演習

木野花（きの・はな）俳優、演出家

1974年に女性だけの劇団「青い鳥」を結成。80年代の小劇場ブームの旗手的な存在となる。同劇団を退団後は、女優・演出家として活躍する一方、若手俳優の育成にも力を注いでいる。

■演技ゼミ

松本修（まつもと・おさむ）演出家、俳優

札幌市生まれ。文学座の俳優を経て、89年に演劇集団MODEを設立。チャーホフ、ベケット、ワイルダー等の海外戯曲を独自のワークショップで再読・再構成し上演。2000年代はカフカの小説を多数舞台化している。

■演技基礎

西沢栄治（にしざわ・えいじ）演出家

JAM SESSION主宰。ギリシャ劇、シェイクスピア、歌舞伎などの古典を中心に、演劇の面白さをまっすぐに描く心意気で活動中。代表作に『女の平和』『わが町』『四谷怪談』『ヴェローナの二紳士』『フランドン農学校の豚』など。

■身体表現基礎／身体表現演習

竹屋啓子（たけや・けいこ）ダンサー、振付家、ダンスO1主宰

マーサー・グラハムカンパニーのメンバーとして活動後、日本のモダンダンス界のリーダーの一人として活躍。ダンス東風企画（1989～2001）としてアジアの芸術家との共同創作、両国上演を行う。その他海外公演多数。芸術選奨文部大臣新人賞など受賞。

小野寺修二（おののでら・しゅうじ）演出家、振付家

1995年パフォーマンスシアター「水と油」を結成。全作品の構成演出に関わる。2008年から「カンパニーデラシネラ」を主宰。振付家・パフォーマーとして活動の場を広げている。

■発声基礎Ⅰ／発声・歌唱Ⅰ

伊藤和美（いとう・かずみ）ヴォイストレーナー

演劇やオペラのスタッフを務める傍ら、06年まで「時々自動」に作曲、パフォーマーとして参加。05年度文化庁派遣在外研修生として1年間渡英。現在、新国立劇場演劇研修所講師。

■発声基礎Ⅱ／発声・歌唱Ⅱ

新田恵（にった・めぐみ）ヴォイストレーナー

スーパーエキセントリックシアター、青年座、東宝芸能、加藤健一事務所、尚美学園ミュージカル学科、多摩美術大学映像演劇学科、舞台芸術学院等で歌唱指導及び後進の指導にあたる。現在、現在、東京アニメーションカレッジ専門学校、新江ノ島水族館、すみだ水族館講師。

■狂言

山本東次郎（やまもと・とうじろう）狂言師

大蔵流・故三世山本東次郎則重の長男。武家式楽の流れを汲む山本会を主宰。芸術選奨文部大臣賞、日本芸術院賞、紫綬褒章などを受賞。重要無形文化財総合指定保持者（人間国宝）。

■能

清水寛二（しみず・かんじ）能役者

鏡仙会会員 山本順之・観世寿夫・八世観世鏡之丞・九世観世鏡之丞らに師事 佐藤信演出・Danny Yung演出『The Spirits Play 霊儀』などにも参加 2018年「青山実験工房」を始める。東京藝術大学非常勤講師。

■合気道

清水健太（しみず・けんた）天道流合気道天道館道場長

管長である清水健二は合気道創始者植芝盛平氏の内弟子として修行した後、1969年に独立。1982年より天道流合気道を創設した。後進の育成・指導にあたりとともに、ドイツをはじめ海外でも合気道の普及につとめる。

■ワークショップ・ファシリテーション／演劇教育

高尾隆（たかお・たかし）東京学芸大学准教授

東京学芸大学准教授。インプロ（即興演劇）創始者の一人、ジョンストンに学び、即興俳優、ファシリテーターとして活動。

■応用演劇

花崎攝（はなさき・せつ）シアター・プラクティショナー

黒テントを経て、2010年から1年間渡英。応用演劇の理論と実践を学ぶ。障害のある人たちとの演劇活動、先住民の若者と環境を考えるプロジェクト（フィリピン）など国内外で継続中。演劇は具体的に人々をつなぎ、一緒に課題を見つめて表現し伝え合う媒体であると考えている。

■劇場技術論基礎Ⅰ〔照明〕

齋藤茂男（さいとう・しげお）照明家、LDC-J会員

演出家の佐藤信や串田和美、白井晃等との仕事多数。修了上演には第1期生から携わる。主な作品に「リア」（佐藤信）、「マハゴニー市の興亡」（白井晃）、「メトロポリス」（串田和美）などがある。今回はライティング・デザイナーズクラブ・オブ・ジャパンの一員として講師に参加。

服部基（はっとり・もと）照明家、LDC-J会員

こまつ座をはじめ演劇、ミュージカル、オペラ、能とひろく舞台照明をてがける。ライティングデザイナーズクラブオブジャパンの一員として講師に参加。

■劇場技術論基礎Ⅱ〔音響〕

藤田赤目（ふじた・あかめ）舞台音響

名古屋出身。北村想、竹内統一郎、生田萬、岩松了、鄭義信、渡辺えり、松尾スズキら、現代演劇の音響プランの仕事が多い。桜美林大学芸術文化学群非常勤講師。日本舞台音響家協会理事。

渡邊邦男（わたなべ・くにお）舞台音響

ミュージカルからオペラ・バレエまで、幅広い分野での音響プランを手がけると共に、舞台音響家の育成にも力を注いでいる。主な作品に「エリザベート」「三文オペラ」「十九歳のジェイコブ」「軍人たち」「しらゆき姫」等。新国立劇場音響課長。日本舞台音響家協会理事長。

【講義】

■パフォーマンス概論

鴻英良（おおとり・ひでなが）演劇批評家

2002年から04年までドイツの国際演劇祭ラオコオン（カンブナーゲル、ハンブルグ）の芸術監督を務める。著書に『二十世紀劇場—歴史としての芸術と世界』（朝日新聞社）、訳書にカントール『芸術家よ、くたばれ！』（作品社）など。

内野儀（うちの・ただし）演劇批評家、学習院女子大学教授

日米の現代演劇を中心に、研究批評活動を展開。著書に『メロドラマの逆襲』『メロドラマからパフォーマンスへ』『Crucible Bodies』『J演劇』の場所』など。

佐々木敦（ささき・あつし）HEAD主宰、ゲンロン批評再生塾主任講師

映画、音楽、文学、演劇などクロスジャンルで批評を展開。HEAD主宰。ゲンロン批評再生塾主任講師、著書に『ゴダール原論』『例外小説論』『ニッポンの文学』『批評時空間』『未知との遭遇』『即興の解体/懐胎』『ニッポンの思想』など多数。

■伝統演劇論

織田紘二（おりた・こうじ）日本芸術文化振興会（国立劇場）顧問

1967年4月国立劇場（現独立行政法人日本芸術文化振興会）芸能部に勤務。以後43年間、歌舞伎、新派をはじめ、文楽、舞踊、邦楽、民俗芸能、琉球芸能などあらゆる伝統芸能の制作、脚本、補綴、演出に携わる。国立劇場芸能部長、理事を経て、現在、日本芸術文化振興会顧問。

■劇場概論

伊東正示（いとう・まさじ）劇場コンサルタント、建築家

新国立劇場の設立準備に参加後、1983年シアターワークショップ設立。以降、さいたま芸術劇場、東京国際フォーラム、吉祥寺シアターなどの劇場コンサルティングを行う。

坂口大洋（さかぐち・たいよう）仙台高等専門学校教授

主に文化施設を中心とした施設計画・設計・調査研究などを行う。震災後は宮城・福島などの被災調査、復興支援などにもかかわる。主なプロジェクトはせんだい演劇工房10-BOX、東北大学百周年記念会館川内萩ホール、雄勝法印神楽再生舞台、白河市仮設能舞台 他。著書「劇場空間への誘い」（鹿島出版会2010）他。

■セノグラフィ論

藤井慎太郎（ふじい・しんたろう）早稲田大学文学学術院教授

表象文化論、西洋舞台芸術論が専門。講義では舞台芸術作品と空間の関係について論じる。共著に『演劇学のキーワード』など。

■テキスト読解

松田正隆（まつだ・まさたか）劇作家、演出家、マレビトの会代表

『海と日傘』で岸田戯曲賞受賞。青年団、文学座などへ描き下ろし多数。2003年に「マレビトの会」を結成。F/T10で『HIROSHIMA-HAPCHEON』を発表。

多田淳之介（ただ・じゅんのすけ）演出家、東京デスロック主宰

古典から現代戯曲、小説、詩など様々なテキストから現代を生きる人々の当事者性をフォーカスしアクチュアルに作品化する。学校や文化施設でのワークショップや創作、人材育成も数多く手掛け、韓国、東南アジアとの国際共同製作も多数。韓国にて第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。

■演劇概論

高橋宏幸（たかはし・ひろゆき）演劇批評家、桐朋学園芸術短期大学常勤講師

「図書新聞」、「テアトロ」で連載。評論に「プレ・アンダーグラウンド演劇と60年安保」、「原爆演劇と原発演劇」、「マイノリティの歪な位置——つかこうへい」、「アゴラからアゴーンへ——平田オリザの位置」など多数。

■ドラマトウルク論/テキスト研究

長島確（ながしま・かく）東京藝術大学講師、F/Tディレクター

戯曲に特化した翻訳の可能性を探り始め、日本におけるドラマトウルクの草分けとなる。著書に『アトレウス家の建て方』、訳書に『新訳ベケット戯曲全集』（監修・共訳）ほか。

■映像メディアワークショップ

飯名尚人（いいな・なおと）ダンス・アンド・メディア・ジャパン主宰

映像作家、演出家、ドラマトウルク、プロデューサーとして幅広く活動。映像作家として佐藤信『The Sprits Play 霊戯』『リア王』、川口隆夫『a perfect life』に参加。ドラマトウルクとして川口隆夫『大野一雄について』『Touch of the other』に参加。演出家として『ASYL』『熱風』などジャンル横断的作品を演出。メディアテクノロジーとダンスを融合するプロジェクトを推進するためDance and Media Japanを設立。東京造形大学（映画・パフォーマンス）、京都精華大学（ヴィジュアル・シアター・パフォーマンス）、座・高円寺劇場創造アカデミー（演劇のためのヴィジュアル演出）で教える。

■舞台美術基礎

堀尾幸男（ほりお・ゆきお）舞台美術家

大型商業演劇を中心に作品を展開。多少片寄って仕事をしているが、本人の志は幅狭くして、深い造形を目指すにある。近年の作品に、志村魂『バカ殿様』、明石家さんま出演『七人くらの兵士』、劇団☆新幹線『髑髏城の七人』など。第24回読売演劇賞・大賞他受賞。

大島広子（おおしま・ひろこ）舞台美術家

英国セントラル・セント・マーティンズ美術学校、シアターデザインコース卒業。帰国後、大道具会社勤務、ドイツの劇場での研修を経て、独立。ドイツ、スウェーデン、イスラエル、シンガポール、ラトビアなど国際協働作品にも多数参加。「ユビュ王」（まつもとと芸術館/小川絵理子演出）の衣裳プランにおいて、2015年度伊藤嘉潮賞奨励賞を受賞。

■劇場環境論/劇場環境実践論

中村陽一（なかむら・よういち）

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授、社会デザイン研究所長
NPO法人やソーシャルビジネスの運営サポート等、現場と大学院を往復しつつ実践的研究、政策提言等に取り組む。ニッポン放送「おしゃべりラボ〜しあわせSocial Design」パーソナリティ。ジャズライブでのリーディングや演劇プロデュースも。東京芸術劇場運営委員。専門分野は、社会デザイン学、ソーシャルビジネス、コミュニティーデザイン、NPO/市民活動論他。

■企画プレゼンテーション/劇場環境ゼミ

高宮知数（たかみや・ともかず）マーケティング・プロデューサー

広告代理店のマーケティング部門、シアターアプルの劇場プロデューサーを経て独立。久留米シティプラザ初代館長。現在は多摩市立複合文化施設大規模改修および再開館に関する多摩市アドバイザーを務める。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科兼任講師。

■特別授業

テレサ・ルドヴィコ 演出家

93年よりテアトロ・キズメット（イタリア）で脚本、演出を手掛ける。シンプルな舞台と生の音楽、幻想的なヴィジュアル、ドラマティックなストーリー展開で、観る者の想像力をかきたてる舞台には、子どものみならず大人にもファンが多い。

修了上演

舞台芸術の専門家を目指し、座・高円寺で2年間学んだ「劇場創造アカデミー」の生徒たちが学びの集大成として、座・高円寺の主催公演として、修了上演を行います。

エドワード・ボンド作『戦争戯曲集』の上演

1期生から8期生まで、そして昨年度、10期生は、修了上演でイギリスの劇作家エドワード・ボンドの『戦争戯曲集』を上演しました。三部からなるこの作品を、1期生（2010年度）と2期生（2011年度）は、第一部『赤と黒と無知』、第二部『缶詰族』を上演、3期生（2012年度）は、第三部『Great Peace』をワークインプログレスとして上演、4期生（2013年度）は、第一部から第三部の通し上演に取り組み、5期生（2014年度）、10期生（2019年度）は、第三部『大いなる平和』の完全上演、そして、6期生（2015年度）、7期生（2016年度）、8期生（2017年度）は、第一部から第三部の八時間を越える完全上演に挑戦しました。核戦争後の社会を題材にして書かれたこの作品を通して、私たちが今演劇に携わることで、社会に何ができるのだろうかを模索しています。

劇場創造アカデミー10期生修了上演

「戦争戯曲集・三部作」 第三部『大いなる平和』

日時 2020年2月21日（金）～ 2月23日（日）

会場 座・高円寺1

作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸

演出 松本修<第一章> 生田萬<第二章> 佐藤信<第三章>

演技監修 木野花



9期生修了上演

2018年度9期生は、カリキュラム・ディレクターとして生徒たちに伴走してきた劇作家・演出家の生田萬が、今を生きる彼らの声から発想して書き下ろした新作を上演しました。

『犬と少女』

日時 2019年2月22日（金）・23日（土）

作・演出 生田萬 演出協力・美術 佐藤信

映像 飯名尚人 振付 竹屋啓子



8期生修了上演

「戦争戯曲集・三部作」
 第一部『赤と黒と無知』 第二部『缶詰族』
 第三部『大いなる平和』

日時 2018年2月22日(木)～2月25日(日)
 作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸
 演出 佐藤信 生田萬



7期生修了上演

「戦争戯曲集・三部作」
 第一部『赤と黒と無知』 第二部『缶詰族』
 第三部『大いなる平和』

日時 2017年2月21日(火)～2月25日(土)
 作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸
 演出 佐藤信 [第二部、第三部 Part1、Part2]
 生田萬 [第一部、第三部 Part3]



6期生修了上演

「戦争戯曲集・三部作」完全上演
 第一部『赤と黒と無知』 第二部『缶詰族』
 第三部『大いなる平和』

日時 2016年2月21日(日)～2月25日(木)
 作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸
 演出 佐藤信 [第一部、第三部 Part1、Part2]
 生田萬 [第二部、第三部 Part3]



5期生修了上演

第三部『大いなる平和』
 「戦争戯曲集・三部作」より

日時 2015年2月27日(金)～3月1日(日)
 作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸
 演出・構成 佐藤信 [Part3]
 生田萬 [Part1・Part2]



4期生修了上演

第一部『赤と黒と無知』 第二部『缶詰族』
 第三部『大いなる平和』
 「戦争戯曲集・三部作」より

日時 2014年2月26日(水)～3月1日(土)
 作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸
 演出・構成 佐藤信 [第一部・第二部] 生田萬 [第三部]



3期生修了上演

第三部『Great Peace』
 「戦争戯曲集・三部作」より

日時 2013年2月15日(金)～17日(日)
 作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸
 演出・構成 佐藤信 [Part1]
 生田萬 [Part2]



2期生修了上演

第一部『赤と黒と無知』 第二部『缶詰族』
 「戦争戯曲集・三部作」より

日時 2012年2月16日(木)～18日(土)
 作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸
 演出・構成 生田萬 [第一部] 佐藤信 [第二部]



1期生修了上演

第一部『赤と黒と無知』 第二部『缶詰族』
 「戦争戯曲集・三部作」より

日時 2011年5月14日(土)・15日(日)
 作 エドワード・ボンド 訳 近藤弘幸
 演出 イクタ トサトウ



写真：宮内勝

座・高円寺 劇場創造アカデミー 修了生の活動

劇場創造アカデミーは提携劇場や各地の劇場と繋がりを持ち、修了後の活動をサポートします。修了生は所属のコースにとらわれず様々な活動をしています。地方の公共劇場で制作として勤務する、芸能事務所に所属し俳優活動を続ける。自ら劇団を立ち上げ作品を作る。そのいずれの活動にも「活動の場」が必要不可欠です。座・高円寺を中心としたネットワークのなかで、演劇人としての活路を見出すことができます。

【劇場／ホール・団体】

- いわき芸術文化交流館アリオス
- ガレージホール（岩手県）
- 城崎国際アートセンター
- 久留米シティプラザ
- 株式会社シアター・ワークショップ
- ジャパン・ソサエティー（NY）
- 杉並区立杉並芸術会館／座・高円寺
- 世田谷パブリックシアター WSラボ研究員
- たちかわ創造舎
- 東京芸術劇場
- 新居浜市総合文化施設あかがねミュージアム
- 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
- PARADICE AIR
- 東大阪市文化創造館
- 株式会社ファイブ・ミニッツ
- 穂の国とよはし芸術劇場PLAT
- 山口情報芸術センター
- 株式会社吉住モーターズ
- 若葉町ウオーフ

【所属事務所】

- M. M. P
- 岡村本舗
- 有限会社現代制作舎
- 有限会社さかがみ企画
- スターダス・21
- ストローハウス
- 株式会社長谷川事務所
- ミズキ事務所

【所属劇団・団体】

- かけっこ角砂糖δ
- 劇団黒テント
- 重力／Note
- 劇団短距離男道ミサイル
- ダンス01（研修生）
- 劇団フーダニット

【結成団体・ユニット】

- 亜細亜の骨（台湾）
- うみやまのあいだ、あめつちのからだ（岩手）
- 演劇ユニットnoyR -ノイル-
- ゲッコーパレード／旧加藤家住宅（埼玉）
- 劇団ドクトペツパズ
- さながら
- トマソンのマツリを考える会
- 250km圏内（愛媛）
- Plant M（大阪）
- プリズマン
- BEBERICA theatre company（京都）
- Radico Theatre

KAI SHIMOMURA

下村 界

1期・演技コース

1984年生まれ。埼玉県所沢市出身。アカデミー修了後、1期生の仲間と『劇団ドクトペッバス』を結成し、2015年より東京都北区文化芸術活動拠点ココキタにてレジデンスアーティストとして活動。また、児童演劇の俳優/ワークショップファシリテーターとして、日本中の小学校・児童館で子どもたちのために奮闘中。



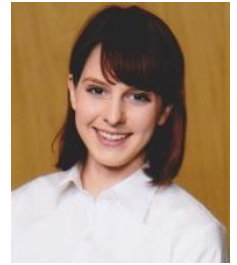
僕は今ようやく入口に立ったと思っています。『演劇で食っていく』という真っ暗なトンネルの入り口です。ここにたどり着くだけでも結構大変なことです。他の養成所でもそうだと思いますが、入所したからといって必ずしも全員がプロになれるわけではありません。途中で脱落する人もいますし、修了してもやっぱり辞めていく人もいます。ですが、僕が今こうして演劇を仕事としてやれるようになってきたのは、やはりアカデミーに入ったからなのだと思います。僕がアカデミーで学んだこと。それは自分で考えるということです。それも、相当しつこく。「劇場で、生きる。」生きることは誰かとの関係を築いていくこと。ここで様々な人との出会いがあると思います。が、誰かと共にそこにいるのは他の誰でもない、あなた自身。アカデミーには劇場で生きるための時間と場所があります。ぜひ門を叩いてみてください。

AMANDA WADDEL

アマンダ・ワデル

4期・舞台演出コース

1988年生まれ。テキサス州ヒューストン出身。南カリフォルニア大学演劇学部演劇学科。座・高円寺劇場創造アカデミー4期終了。「革命アイドル暴走ちゃん」という劇団に所属していたのち、NYのジャパン・ソサエティに勤務。



今となって思えば、二年間ずっと劇場で過ごしていたということが、どれほど贅沢な生活だった分かる。アカデミーが提示している「劇場で、生きる」という言葉に、嘘はない。卒業した今、再び「劇場で、生きる」ことの難しさに直面している。アカデミーはその戦いのための準備をする場所だと思う。私は演出ゼミだったが、最終的には演技、制作、ドラマツルギーを含む自分のスキルのすべてを磨くことができた。さらに、このプログラムには「卒業生のネットワーク」という特典がつく。互いの作品に興味をもってくれる卒業生がたくさんいる。彼らと助け合ったり、コラボしたり出来るのでやりがいある。もしチャンスがあったら、もう一度やってみたいと思う。

これまでの修了生

1期生 (2011年5月修了)

演技コース 10名
舞台演出コース 5名
劇場環境コース 5名
講義のみコース 10名
(2010年3月修了)

2期生 (2012年2月修了)

演技コース 6名
舞台演出コース 6名
劇場環境コース 5名
講義のみコース 5名
(2011年4月修了)

3期生 (2013年2月修了)

演技コース 6名
舞台演出コース 2名
劇場環境コース 3名
講義のみコース 1名
(2012年3月修了)

4期生 (2014年3月修了)

演技コース 10名
舞台演出コース 4名
講義のみコース 2名
(2013年3月修了)

5期生 (2015年3月修了)

演技コース 7名
舞台演出コース 3名
劇場環境コース 1名
講義のみコース 4名
(2014年3月修了)

6期生 (2016年2月修了)

演技コース 4名
舞台演出コース 2名
劇場環境コース 1名
講義のみコース 6名
(2015年3月修了)

7期生 (2017年2月修了)

演技コース 5名
舞台演出コース 2名
講義のみコース 5名
(2016年3月修了)

8期生 (2018年2月修了)

演技コース 6名
舞台演出コース 2名
劇場環境コース 1名
講義のみコース 3名
(2016年3月修了)

9期生 (2019年2月修了)

演技コース 1名
舞台演出コース 1名
講義のみコース 5名
(2017年3月修了)

10期生 (2020年2月修了)

演技コース 5名
劇場環境コース 2名
講義のみコース 2名
(2017年3月修了)

劇場創造アカデミーは、座・高円寺の開館と同時に、2009年4月に開設されました。1期生～10期生合わせて約150名の修了生を輩出し、現在は11期生が研修や講義を受けています。

募集要項

座・高円寺 劇場創造アカデミー2021年度生（第12期生）

【募集概要】

◆募集コース

演技コース [2年制／俳優、ワークショップリーダーとしてのちからを培う]
舞台演出コース [2年制／演出、ドラマトウルク、舞台美術、劇場技術について学ぶ]
劇場環境コース [2年制／制作、劇場運営、地域社会と舞台芸術の相互活性化について学ぶ]
講義のみコース [1年制／カリキュラムの中から1年目の講義科目のみを受講]

◇授業期間

2年間（2021年4月中旬開講、2023年3月上旬修了／夏期、冬期、春期休暇あり）
※講義のみ受講生は、2022年3月中旬修了

◆授業時間

月曜日～金曜日 10時～12時／13時～15時（1日2コマの授業を受講）
※授業課題の自主稽古が平日15時～18時に行われる場合があります。

◇場所

座・高円寺 地下3階／けいこ場2 けいこ場3 地下2階／阿波おどりホール

※合気道は世田谷区三軒茶屋の天道館道場で行なわれます。
※劇場外での授業の場合、交通費は各自の負担となります。

◆募集人数 20名程度 講義のみ受講生は別枠で10名を予定しています。

◇入学金・受講料

[1年次] 入学金 50,000円・受講料 300,000円 [2年次] 受講料 300,000円

※受講料納入は、「一括払い」または「分割払い（年2回／要誓約書の提出）」
のどちらかを選択することができます。

[杉並区民割引]

杉並区在住の方を対象に、1年目受講料の20%を免除いたします。2021年度アカデミー入所時に、杉並区に住民票がある方が対象になります。入学手続き時に住民票の写しを添えてご提出ください。

授業は全て日本語で行います。外国籍の方の場合、研修期間中の日本滞在許可が取得出来ることが応募条件となります。

【募集説明会】※オンラインでもご参加できます。

カリキュラム・ディレクターとアカデミー担当による授業内容の説明会を開催します。

[第一回] 2020年11月21日（土）14時 [第二回] 2021年1月16日（土）14時

場所：座・高円寺 地下3階 けいこ場2／けいこ場3

参加ご希望の方は、メールまたはお電話で、「お名前」「ご連絡先電話番号」
「ご連絡先メールアドレス」を下記担当までお知らせください。

受験手続き

【応募に必要な書類】

- 1) 受験申込書
- 2) 舞台芸術に関する経歴
- 3) 作文「私は演劇とここで出会った」のテーマで800字以内

- 4) 受験料振込控えコピー ※通常受付（2021年1月16日～2月26日）にご応募の方

※2)、3)の書類は、A4用紙に横書きで記述のこと（原則として手書きはご遠慮ください）
なお、提出いただいた書類は返却いたしません。

【申込期間／受験料】

早期受付 2021年1月4日(月)～1月15日(金) ※当日消印有効 / 受験料免除

通常受付 2021年1月16日(土)～2月26日(金) ※必着 / 受験料5,000円

[受験料振込口座] 三菱UFJ 銀行 高円寺支店 (155) 普通0007045
特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク 座・高円寺
トクヒ□ゲキジョウソウゾウネットワーク□ザコウエンジ

※受験者ご本人の名前でお振り込み下さい。受験料の納入は、申込書類の郵送期間を考慮して手続きを行ってください。
お振込いただいた受験料は、受験をとりやめた場合でも返金いたしません。

[申込書送付先] 書留など記録の残る方法でご送付ください。
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-1-2 座・高円寺 劇場創造アカデミー担当

+++++

[選考過程]

応募書類提出



書類選考



実技・筆記試験・面接

2021年3月6日(土) 東京会場 / 座・高円寺

結果通知：3月12日までにメールおよび郵送で通知。
合格者には、合格通知とともに入学手続きに必要な書類を発送いたします。

2021年度生募集に関するお問合せ

Tel. 03-3223-7500 Fax. 03-3223-7501 e-mail: academy@theatre-koenji.jp
座・高円寺 劇場創造アカデミー (担当：安達修子・斉藤由利子)

【お問合せ・見学お申込み】

座・高円寺 劇場創造アカデミー

担当: 安達修子 齊藤由利子

Tel. 03-3223-7500 Fax. 03-3223-7501

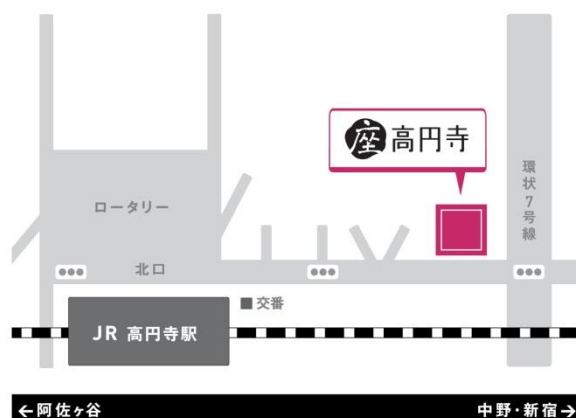
E-mail: academy@theatre-koenji.jp

座・高円寺ウェブサイト

<https://za-koenji.jp/>

劇場創造アカデミーウェブサイト

<https://za-koenji.jp/academyhp/>



座・高円寺（杉並区立杉並芸術会館）
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-1-2
JR中央線「高円寺」駅 北口を出て徒歩5分